

Weekly Bulletin 2021-2022



RI会長
シェカール・メータ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

静岡東ロータリークラブ

会長／川崎依子 幹事／長田きみの

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
川崎依子



第3003回例会

令和3年11月25日

《司会》島 武志 君

《合唱》「手に手つないで」

「静岡東ロータリー」

《ソングリーダー》佐橋 徹 君

《ゲスト》たんぼぼ診療所

院長 遠藤博之様

《ビジター》なし

《本日のお祝い》

・お誕生日

該当者なし

・結婚記念日

11月27日 林田尚翁君

11月30日 宮崎貴久君

《会長挨拶要旨》 川崎 依子会長

本日は、久々にゲスト卓話となりました。宮城会員のご紹介でたんぼぼ診療所 院長の遠藤博之様にリモートでお話しいただきます。プロフィールをご紹介します。

遠藤様は1964年に清水市にお生まれになり、県立清水東高校をご卒業後1983年に山梨医科大学にご入学、医学の講義よりも哲学などに興味を示され、また終末医療にも関心を抱かれて、聖隷三方ヶ原ホスピスに実習に行かれたそうです。1989年に大学をご卒業後、静岡済生会総合病院ではハリキリ研修医として過ごされ、翌年に腎臓内科に入局され、腹膜透析された方を在宅で何人か看取られたそうです。

1995年 静岡済生会総合病院内で「緩和ケア研究会」を立ち上げられ、主催。人に対するやさしさ・スピリチュアルケアを追い求められました。

2003年 在宅・緩和ケアチーム立ち上げ

2004年 緩和診療科科長となる。

2005年 たんぼぼ診療所開設

現在「スピリチュアルケア・悲しみのケア」追求中とのことです。遠藤様のブログを読ませていただき、患者さんに寄り添って最期まで看取られていること、そして心からの慰めの言葉をご遺族にかけることの難しさを知りました。私も高齢の母を最期は、自宅で安らかに見送ることができたらと思いました。今日のお話をとても楽しみにしております。

《来賓卓話（又は会員卓話）》

『死を背景にしてこそ 生の意味はあざやかに』

たんぼぼ診療所 院長 遠藤博之様

《卓話サマリー》

1たんぼぼ診療所の由来

たんぼぼの意味は、星野富弘さんの詩からきています。24歳で不慮の事故によって障害を負って首から下が動かない状態となってしまった星野さんは自らの死まで考えられたそうです。その星野さんが口に筆を加えて書いた



詩。星野さんが悲しみの果てから見つけ出した大切なもの。大切なものを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

2 本当に大切なものとは

危機的な状況が本当に大切なものに気付かせてくれる。人は、危機的な状況に置かれたり、究極の選択を迫られたりすると、本当に大切なものが何であるかということに気付くことができます。

医学の進歩に伴い、延命を主とした医学だったものが、今では生命を与えるケアに変わりつつありました。それをコロナ禍によって作り出された危機的状況が、私たちに気付かせてくれました。

3 悲しみの中に幸せを求める

尊敬する日野原先生に『君は楽しみの中に幸せを求めている』と言われました。『人は楽しみの中に幸せを求めているなら人生は台無しになる』と。

人は、老いや、病や、別れなどの不安や悲しみと共に生きている。ここには魂の痛みがある。『悲しみの中に幸せを求める』ようにしていくべき。

私は尊敬する人と写真を撮りたがる癖があり、この写真は日野原先生が99歳になられる前に一緒に撮らせてもらったものです。



遠藤院長

4 魂を見る

ケアをしていく中で、老い、病、死を前に緩和ケアだけに関わっても、たんぽぽ診療所は何もできないのではないかと感じました。患者さんやご家族が、『人生にとって何が大切か』教えてくれる。元気な時からこの『人生にとって何が大切か』を考えていくことが『魂を見る』ということではないだろうか。『魂を見る』ことがかかりつけ医にとって大切なことではないかと気づきました。

5 死を背景にしてこそ生の意味はあざやかになる

『死の相のもとに』人生をみると、多くのものは重要性を失ってしまう。死を背景にしてこそ生の意味はあざやかになる。『ほんとうに生きる』ということと一緒に考えていきましょう。

《所感》

豊かな時代で恵まれた環境で育ち、様々な可能性があり、また多くを求めることができる昨今。大切なものは何か、そうでないもの、といったことが分からなくなっていたり、考えることもなくなっているかもしれないと思いました。

今回の遠藤先生の卓話を拝聴する前に、身近に実際に遠藤先生の『たんぽぽ診療所』にかかっている方に話を伺ったところ、遠藤先生は『たんぽぽ診療所』を訪れた一人一人の患者さんに向き合い、遠藤先生の優しいお言葉で患者さん自身にとっても、患者さんの家族としても、前向きな気持ちになれる診療をされるということで、絶大な信頼をおかれているといった様子を聴くことができました。また患者さんからは親しみを込めて「たんぽぽ先生」と呼んでいる方もいると聴きましたが、今回の卓話を通して感じた印象もそのたんぽぽの名のとおり柔らかな周りを明るくするような方だと感じました。川崎会長のお話にもあったように、自分自身や家族にとって少しでも前向きな気持ちで家族を送れるよう考えて参りたいと思います。

《スマイル報告》

高柳 正雄君（結婚記念日の御礼）

山川 雅久君

札幌の実家から、雪も降って来たので久々に顔を出せ、と連絡がありました。両親の顔を思い出してスマイルします。

鶴見 展哉君

本日、1ヶ月振りに顔を合わす大学生の娘と食事に行きます。ということでスマイルします。

（会報作成 大脇 順実）